

平成 22 (2010) 年夏の夜間開園時の夜開性・夜香性植物開花状況 (大温室、熱帯スイレン温室の植物)

磯部実・高井敦雄・竹本香織・佐上賢治・西本昭作

平成 22 年の夏の夜間開園は 8 月 28 日、9 月 4 日、11 日、18 日、19 日に行った。大温室、熱帯スイレン温室において夜開性の植物の開花または芳香を入園者に楽しんでもらった植物を記録する (表参照)。本年は夏が異常に高温だったため、夏の夜間開園時には開花が遅れ、展示できなかったものがあった。

なお、4 月に 1 回と 12 月に 5 回夜間開園を行ったが、夜咲き性・夜香性植物はヤコウボクしか展示できなかったのもので省略する。

サガリバナ (写真 1) は花が美しいため宣伝用チラシに掲載され、人気があり、夏の夜間開園には目玉になる植物である。そのため当日は開花が見られるのが必須であり、剪定等最も日常管理に注意を払う植物である。地植えの大木 (樹高 4 m) は 7 月ごろより開花を始め、夜間開園時には花が終了してしまふことが懸念されたが、合計 200



写真 1. サガリバナ

本以上の花序が順次開花し、期間中の開花状況は良好であった。平成 21 年は花が早く咲き終わってしまったので、秋の剪定は例年より遅い、11 月中旬に剪定し、樹形を整え、開花枝の形成を遅らせるように考慮した。その他、昨年まで僅かしか開花しなかった正面池そばの自然実生個体 (樹高約 2 m)



写真 2. 熱帯スイレン

や 20 号コンテナ植え個体 2 本 (樹高約 2 m)、12 号大鉢植え個体 (樹高 1 ~ 2 m) 数本も春から充実枝の捻枝や下方誘引を行ったところそれぞれ開花がみられた。

夜咲き熱帯スイレン (写真 2) は良好に開花したが、最終日の 9 月 19 日に不開花だった。オオオニバス類はロングウッドオオオニバスとパラグアイオニバス (写真 3、4) が主に開花した。夜間開園時には 2 日目の花がほとんどであったが最終日の 9 月 19 日は 1 日目の花を見ることができた。

ヤコウボク (写真 5)、イランイランノキ (写真 6) は花の多少はあったが、夜間開園時には展示することが出来、芳香を楽しんでもらえた。イエライシャン (写真 7) は 6 ~ 7 月にカイガラムシが異常発生し開花終了したが、9 月からは再び開花したので展示できた。

ヤコウタケ (写真 8) は夜間開園時の前半は展示できなかったが、冷房室 (フクシア温室) に移動することにより後半に展示でき、その後 11 月中旬まで大温室トンネル内の展示場所において数回展示することが出来た。

ゲッカビジンは 8 月 20 日に開花したが、その後 10 月上旬まで開花せず、夏の夜間開園時に展示できなかったのは残念であった。代わりに 10 月のグリーンフェア開催時に蕾が大きくなったので鉢植え

表. 平成 22 (2010) 年夏の夜間開園の夜開性・夜香性植物開花状況

| | 8/28 | 9/4 | 9/11 | 9/18 | 9/19 | 主な生育開花状況その他 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------------|--|
| サガリバナ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | 7 月上旬から開花。鉢植えも多数開花し 10 月ごろまで開花した。 |
| 夜咲き熱帯スイレン | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | × | スターパンティー他 4 品種開花。 |
| オオオニバス類 | ○ 2 日目 | ○ 2 日目 | ○ 2 日目 | ○ 2 日目 | ◎ 1 日目と 2 日目 | ロングウッドオオオニバスとパラグアイオニバスが開花した。 |
| ヤコウボク | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | 9 月は鉢植えの展示が主体になった。カイガラムシ発生。 |
| イエライシャン | × | ○ 開花始め | ◎ | ◎ | ◎ | カイガラムシの被害のため開花が遅れた。 |
| イランイランノキ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | カイガラムシ発生。 |
| ヤコウタケ | × | × | ○ | ◎ | ◎ | 冷房温室 (フクシア温室棚下) にて発生を早めることが出来た。 |
| ゲッカビジン | × | × | × | × | × | 8 月 20 日に咲いたがその後 10 月中旬まで未開花。秋のグリーンフェアで日中展示。 |

◎非常に良好な状態で展示 ○良好 × 展示できず



写真3.パラグアイオニバス (1日目)



写真4.パラグアイオニバス (2日目)



写真5.ヤコウボク



写真6.イランイランノキ



写真7.イエライシャン

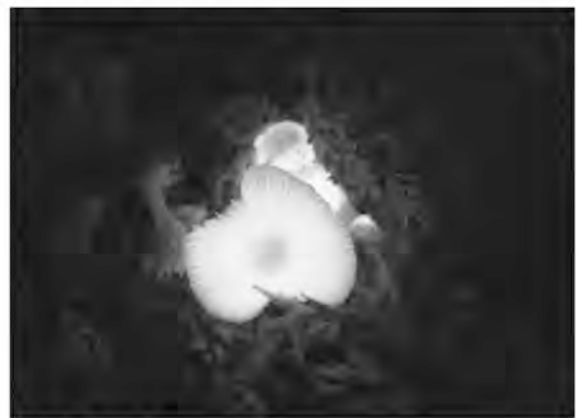


写真8.ヤコウタケ

を昼夜逆転の開花調整を行い(栽培記録30号参照)、数鉢を日中に展示した。

課題と対策

サガリバナは樹が大きく成長したことによって開花数が増え、夏の夜間開園中はほぼ開花を見ることができ、大木以外も年々開花数が増しているの、ほぼ期間中は花が観察できるようになってきた。

夜間開園時に展示したオオオニバス類はロングウッドオオオニバス2株とパラグアイオニバス1株であった。しかしロングウッドオオオニバスの1株は大きくなった時に移植したため生育が遅くなり、夜間開園時には開花せず、他の2株では2日

目の花の場合が多かった。3株とも順調に成長させることが出来ればいずれかの株かが1日目と2日目の開花が観察できると思われる。

ヤコウボク、イエライシャン、イランイランノキについては剪定とカイガラムシなどの害虫の徹底防除を行うことにより開花を確実なものにすることが大切と考える。

ヤコウタケは高温時には発生が悪いので、冷房室などで発生適温を保つことで発生を促し、展示技術の確立を目指す必要がある。

ゲッカビジンは8～9月が異常高温だったためか、花芽の発生がみられなかった。冷房室などで花芽分化を促す方法を検討する必要がある。